

コアプロジェクト予備研究(FS)

オープンサイエンス時代の社会協働に基づく 地球環境研究を支援する情報サービスの実現

Open Science

アンカンファレンス

近藤康久 (FS責任者)



経過報告:前回研究会(10.2-3)

オープンサイエンスの動向

- 村山泰啓:オープンサイエンスの最新動向と地球環境研究、Future Earth
- 北本朝展:「巨人の肩」とデータサイテーション

オープンサイエンスに向けた地球研プロジェクトの課題

- 淺野悟史:栄養循環プロジェクトにおける市民参加型科学の推進~滋賀県水草堆肥事業を例に~
- 石川智士:エリアケイパビリティープロジェクトにおける社会・市民との双方向連携に基づく研究や環境教育を実現するにあたっての課題
- 羽生淳子:小規模経済プロジェクトにおけるデータ共有・公開の課題 と展望
- 寺村裕史:フィールド調査データの公開・共有に際しての課題と展望
- 安富奈津子:地球研アーカイブスにおける地球環境学際研究データの 収集と利用

人間文化研究機構、他機関の事例

• 丸川雄三:国立民族学博物館における文化資源情報公開の取り組み: フォーラム型情報ミュージアムについて

前回研究会で見いだされた方向性

このコアプロジェクトは、

- 1. 環境情報資源を社会と双方向的に活用していく方法*の開発・提案
 - *教育が重要!
- 2. 地球環境学におけるオープンリサーチデータの促進
- 3. 地球環境学のオープンサイエンス化を推進する高度専門人材の育成
- に取り組むべきである。

7



本研究(FR)移行に向けた課題設定

オープンサイエンスに基づく地球環境知の共同利用基盤形成

オープンサイエンスの時代に、多様な研究当事者と協働して地球環境学を飛躍的に発展させるために、情報資源をいかに利活用するか?

《サブ課題》

- 1. 社会との協働による地球環境問題解決を支援するために、 情報資源をどのように活用するか?
- 2. 地球環境研究のイノベーションを加速するために、 研究資源をどのように当事者間で共有するか?
- 3. オープンサイエンス・イノベーションを推進するために、 どのような人材が必要か?

地球環境問題の特性

- 人間社会と自然環境の要因が 時間的にも空間的にも多様な スケールで絡みあって起きる。
- 実証的研究=フィールドワークは離散的で地域色が強い。
- →離散的なデータを異なる視点 で統合・分析すると、どのよう な「知の跳躍」が起きるか?



10

アンカンファレンスの進め方

近藤康久



アンカンファレンスとは

"アンカンファレンスとは講演者の話を聞くセッションの形態とは異なり、参加者自身がテーマを出し合いそのテーマについて自分たちで話し合い、参加者全員で作り上げるカンファレンスです。"

(WordCamp Tokyo 2012 ホームページより)

19

アンカンファレンスの進め方

- 1. 議題にコメントを付けます。(投票)
- 2. 時間割を決めます。
- 3. 好きな議題のテーブルに移動して、 グループで話し合います。×2回
- 4. ラップアップ(まとめの会)で、各グループから話し合った内容を報告し、 参加者全員で共有します。

20

話し合いの進め方

- 一座で順繰りに名前を名乗りましょう。
- なんとなく役割を決めましょう。
 - ファシリテーター(司会進行役)
 - 書記
 - タイムキーパー
 - 報告者(ラップアップで登壇してもらいます)
- 発言は簡潔に。
- 名前を呼ぶときは「さん」付けで。
- 建設的な議論を心がけましょう。
- 終了5分前になったら収束の方向へ。

21